

## 目 次

はじめに	
提言要旨	1
1 子どもを取り巻く現状	2
(1) 子どもの頃の体験と大人になってからの意欲・関心等への影響	2
(2) 子どもを取り巻く現状	2
(3) 地域交流への意識や行動の現状	4
(4) 学校教育における体験活動	6
2 課題	6
3 先進事例の考察	7
(1) 平塚市「ふれあい通学合宿」	7
(2) 鹿児島市「遊休農地を活用した人づくりと安心・安全なむらづくり」	9
4 政策提言	10
おわりに	14

---

### はじめに

私たちが子どもの頃は、まだまだ外で遊ぶことが多かったと思う。枯れ枝や竹や草を利用して空き地に秘密基地を作ったり、鬼ごっこをしたり、もちろん、学校のグラウンドで駆け回ったり、地域にあるものをそのままの環境の中で、子どもたちの間でルールを作って、集まった人数でいかようにも「遊び」は考えられていたし、楽しかった思い出が多い。

子どもは、「遊び」を通して小さな社会で多世代の人に会い、様々な経験をして学び、そして成長してきたのではないかと思う。仲間といかにして遊ぶか、どこで何をするかなど、「遊び」の中で自分で考え、行動することで、自主性や創造性、社会性などを養っていく。また、学校や家庭では出会えない人との交流の機会の中で、人とつながる力を身につけていく。けんかや怪我もするだろう。しかし、そういった失敗体験の中で、危険なこと、相手を思いやること、そして、自分の考えを伝えることなど、「遊び」を通して、子どもは成長するものではないか。

現在の子どもたちは、地域社会との人間的なつながりが希薄になり、人との交流によって学び、成長していく機会が少なくなっている。子どもにとって、家庭・地域・学校は日々そこで生きている生活空間であり、その中で多世代の人との交流が減ったことが、子どもの成長にマイナスの影響を与えていると考えられ、将来、社会に出た際に、多様な人との交流で社会を築いていくことができるかどうか危惧される。

子どもたちと地域社会とのつながりに焦点を当て、浮かび上がった問題からその課題解決策を提言する。

---

# 提言要旨

## 子どもから広がる絆の環 ～子どもと地域をつなげよう～

